テニス・全日本学生選手権

女子ダブルス

難波・金子組がベスト8入り

◀ ベスト8の難波（右）と金子（撮影・斉藤）

全日本学生テニス選手権が8月20日から26日まで、岐阜メモリアルセンターで行われた。難波沙樹子（文4・新宿山吹高）・金子真理子（文2・秀明八千代高）組が、女子ダブルスでベスト8入りを果たした。

本戦の2回戦から登場した難波・金子組は、初戦で中野亜美（経営4・博多青松高）・下川花（商2・富士見丘高）組との同門対決を制すると、続く3回戦はフルセットの末に勝利。しかし、4回戦で西本・池田組（慶大）にセットカウント1―2で敗れた。

8月の関東学生選手権に続き、ベスト8となった難波・金子組。試合を振り返り難波は「ベスト4入りが目標だったので悔しい。金子とは春からずっと組んでいたが、大事なところで決めることができなかった。相手の気迫に負けてしまった」と話した。

また、平田大輔監督は「予選から出場する選手も多く、体力的に厳しかった。チーム全体として好成績を挙げられなかったのは残念。これからは体力強化を中心に練習していきたい」と大会を振り返った。

（林　裕太・法2）

フェンシング・全国サーブルチャレンジカップ北海道大会

ジュニア男子で張眞が準優勝

9月1、2の両日、全国サーブルチャレンジカップの今年度第3回大会が札幌厚別区体育館で行われ、ジュニア男子で張眞（はり）龍太（経済2・玉野光南高）が準優勝という好成績を残した。

大会を振り返り、「決勝戦は勝てる試合だと思っていたので本当に悔しい。メンタル面で試合に調子を合わせられなかったことや、自分の基礎を作り直すだけに留まり、大会の作戦を準備していなかったことが結果に響いてしまった」と悔しそうに語った。一方で「自分は守りが得意だが、今回『いつどのように攻めていけばいいのか』という課題を見つけることができた。日本選手権でこの反省を生かしたい」と気持ちを切り替えた。

ジュニア女子では百﨑千裕（ネット情報1・佐賀商高）が6位となった。（大嶋　輝・文2）

アーチェリー・関東学生個人選手権

佐藤が5位に

関東学生アーチェリーの両日、駒沢第一球技場で行われ、佐藤尚樹（経営2・田村高）が5位となった。

今大会は90、70、50、30㍍の各距離の合計点で競われた。1259点のスコアで終えた佐藤は「最初は風が強く、その対応がうまくできなかったことがスコアに響いた」と振り返った。

佐藤は9月に行われる全日本学生個人選手権の出場が決まっている。全国の舞台に向けて「難しく考えずに楽しく射っていきたい」と意気込みを語った。

また、関東学生個人選手権の上位入賞者によるトーナメント戦・KSAFカップ（8月24日、同会場）では、佐藤が6位、女子の前野完奈（法4・下妻第一高）が7位となった。

（葛西　千瑛・文2）

▲ 善戦及ばず準決勝で敗れた学選抜の遠征

サッカー・天皇杯東京都代表決定戦

惜しくも準決勝敗退

8月15日、北区の味の素フィールド西が丘で天皇杯全日本サッカー選手権東京都代表決定戦の準決勝が行われた。対戦した東京23フットボールクラブは東京都社会人リーグの所属チーム。勝てば決勝戦進出という試合だったが0―2で敗戦となった。

「いつものメンバーとの差が大きかった」と源平貴久監督も話すように、仲川輝人（商2・日体荏原高）をはじめ3選手を全日本大学選抜の遠征で欠き、専大らしいサッカーをさせてもらえないまま敗退。

しかし、専大イレブンの戦いはまだ終わらない。9月15日から関東リーグ戦の後期がスタート。前期を首位で折り返した専大。初戦の第12節は味の素フィールド西が丘で東京学芸大と対戦する。（鈴木　詩織・文2＝写真も）

スキー・Snow Farm COC Cup

男子15㌔クラシカルで石川が7位に

スキーのSnow Farm COC Cupが8月9日から11日まで、ニュージーランドで開催され、男子15㌔クラシカルで石川謙太郎（経営1・旭川大学高）が7位となった。

「今年度の初レースだったが、世界と戦える実力がついてきたと確認できた」と語った。

石川は8月18、19の両日、秋田県の花輪スキー場で行われた全日本ローラースキー選手権の成年男子10㌔クラシカル、同フリーでも2位に入賞。シーズン本番に向け、順調な仕上がりを見せた。

Sports カレンダー

◇アイスホッケー部
▽関東大学リーグ戦（ディビジョンⅠグループB）
9月8日～12月4日（ダイドードリンコアイスアリーナほか）

◇ゴルフ部
▽関東大学秋季ブロック対抗戦
9月19、20日（こだまゴルフクラブ）

◇準硬式野球部
▽東都大学秋季リーグ戦
9月1日～10月10日（八王子市民球場ほか）

◇バスケットボール部
▽関東大学リーグ戦
9月1日～10月28日（生田総合体育館ほか）
▽関東大学女子リーグ戦
9月1日～10月21日（同）

◇バレーボール部
▽秋季関東大学リーグ戦
9月15日～10月14日（生田総合体育館ほか）

◇陸上競技部
▽東京箱根間往復大学駅伝競走予選会
10月20日（東京都立川市）

◇レスリング部
▽全日本大学グレコローマン選手権
10月18、19日（駒沢体育館）

◇ローラースケート部
▽全日本学生選手権
10月6、7日（千曲川リバーフロント）

関東大学アメリカンフットボールリーグ戦　1部Bブロック日程

9月	8日(土)	専　大―慶　應　大	10:30	川崎球場
	15日(土)	専　大―早稲田大	16:45	アミノバイタル
	30日(日)	専　大―中　央　大	14:00	アミノバイタル
10月	7日(日)	専　大―法　政　大	13:45	アミノバイタル
	20日(土)	専　大―学習院大	13:45	夢の島競技場
	28日(日)	専　大―東京都市大	11:00	アミノバイタル
11月	11日(日)	専　大―関東学院大	11:00	アミノバイタル

※アミノバイタル＝アミノバイタルフィールドの略。

関東大学ラグビーリーグ戦（2部）日程

9月	23日(日)	専　大―玉　川　大	15:00	拓大グラウンド
	29日(土)	専　大―東　洋　大	13:00	日大グラウンド
10月	14日(日)	専　大―國學院大	12:00	拓大グラウンド
	21日(日)	専　大―国士舘大	12:00	拓大グラウンド
11月	4日(日)	専　大―山梨学院大	14:00	拓大グラウンド
	11日(日)	専　大―立　正　大	14:00	熊谷ラグビー場
	25日(日)	専　大―埼玉工業大	12:00	熊谷ラグビー場

合宿だより

●スピードスケート部

陸・氷上で練習にメリハリ

インカレ連覇へ向け着々

▲ 合宿後半には氷上の練習も始まった

この夏、スピードスケート部は、前半（8月1～16日、北海道斜里郡清里町、帯広市）で陸上トレーニング、後半（8月27日～9月15日、北海道帯広市）は氷上での練習を加えた合宿を行った。

取材した合宿後半の2日間は、午前が屋内リンクでのスケーティング。午後は持久力を高めるために自転車で50㌔を走るバイクトレーニングを行った。炎天下で暑さと戦い、自転車を軽々とこぐ選手たちのパワーに驚かされた。

前半の陸上トレーニングで氷上練習に合わせてきたため、チームのレベルは上がってきているように見えた。

糸川敏彦監督は「まだ氷に乗り始めたばかりで慣れていない。今季の状態を測るタイムトライアルに調子を合わせていけるように、さらに練習していく」と語った。

日本学生氷上競技選手権連覇を目指すスピードスケート部の活躍に期待したい。

（坂本　千夏・商2＝写真も）

●ラグビー部

メニュー多彩に筋力アップ

1部復帰へフォワード強化

▲ 今季もフォワードがカギ

8月17日から26日まで、長野県の菅平高原で行われたラグビー部の合宿を取材した。

練習ではオープン戦からの課題だったディフェンスの強化が少しずつ実を結んできていることが見て取れた。フォワード陣も「週4でやってきたウエートトレーニングで体重が4、5kg増え、体脂肪率も下がってきた」と村田亙監督が話すように、着実に力をつけている。合宿中もウエートトレーニングは続けられ、スクワット、ベンチプレス、デットリフト、プッシュアップなどに加え、大胸筋や体幹をうまく使えるようにするために坂道での車押しと、さまざまなメニューで鍛えていた。

また、オープン戦ではCチームだった原田容暢（やすのぶ）（商4・東福岡高）がAチームに昇格するなど、チーム内での切磋琢磨も戦力向上につながっている。

村田監督は「とにかくセットプレーで負けないこと。1部で戦えるだけでなく、明るく、楽しんでプレーできるチームにしていきたい」と語り、照井善幸主将（経済4・黒沢尻北高）は「チーム、個人がスキルアップして1部復帰を目指す」とコメントを残した。

（真田　泰太・文2＝写真も）

▲ 実車を利用した車押し練習